

徳
久
三
郎

^ 13
3165
8



へ 13
3165
8

昭和十年
七月四日
購

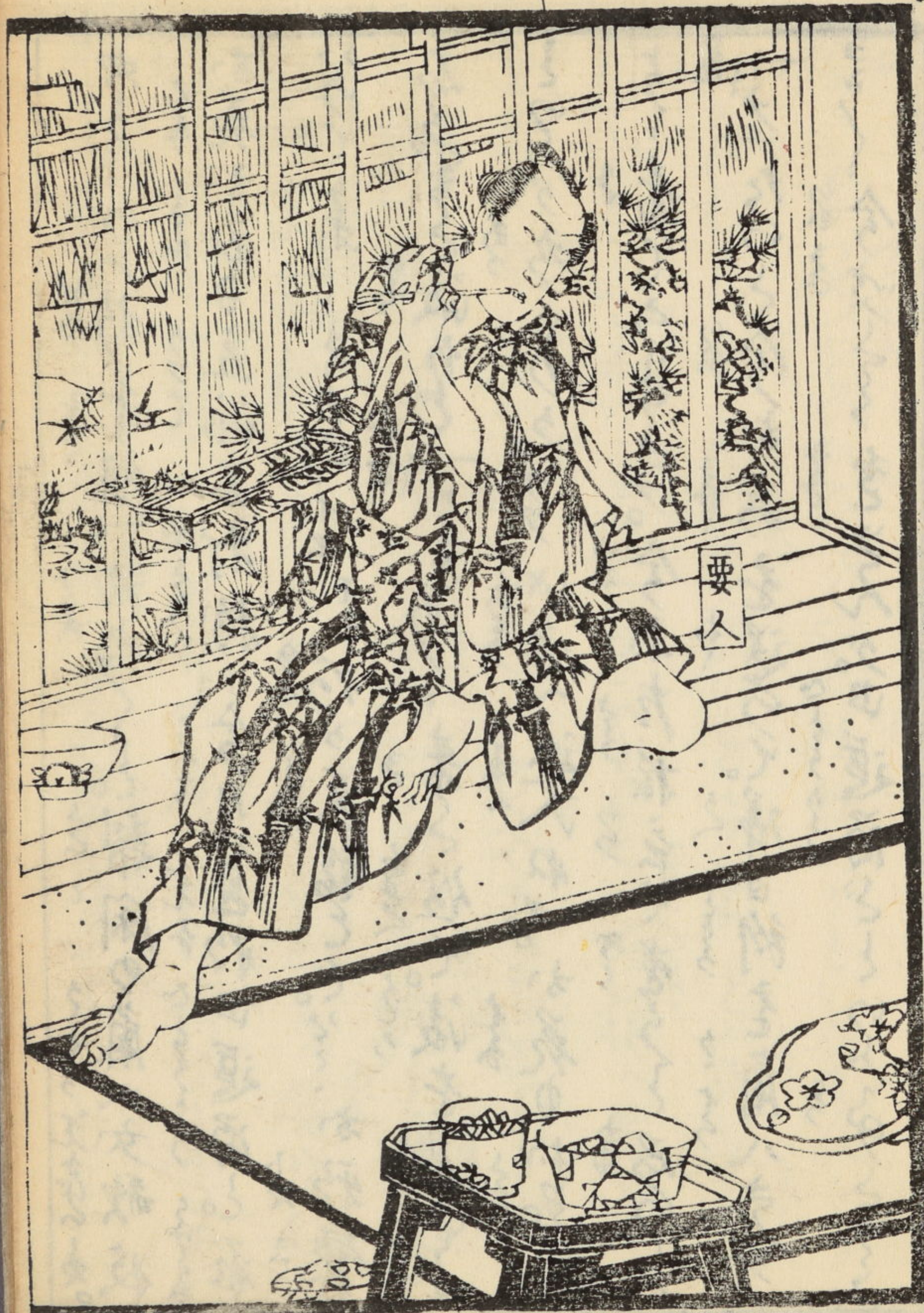
毬唄三人娘第三編卷之中

東都

松亭金水編次

第三回

北の廓きたのくわくふ名なゆきゆき。三浦みづらをとりとの枝えだ樓ろうみ。都みやこ野のふ
その名なをままくくまましてしる。宮みや雄ゆう代だいのの後のちゆ。交まじ替か名な枝えだ
あつあつといいとと勢せい昌昌の家いへあるある。その次つぎはは機はたとといいふふる
いい年としままぐぐ二ふた十じゅう二にああままとと。標しるし致ちへへ元もとよりより柱はしら藝ぎふふゆ。
ままささくく長ながいいのの廓くわくふ。三さんとといいわわるるぬぬ名な枝えだ入い来きる



この下僕にぞうの考ど。来い定ぬ。素らう。何
振り入めて逃げて仕舞と。よくその状を隠さる。不
さね。が。ア。か。解。ね。一。何。不。由。お。お。恥。う。の。ふ。ふ。の
く。委。く。紙。を。の。ひ。お。ま。す。私。お。お。根。由。知。つ。て。の。を。
親。の。為。不。あ。く。来。て。モ。ウ。八。年。不。あ。り。ま。し。か。子。を。若
こ。と。ぞ。う。う。知。り。押。由。お。さ。ま。の。志。あ。く。成。る。又。世。に。出
と。妻。を。お。ん。ぎ。ア。戀。の。の。ぞ。悔。の。ぞ。で。ほ。く。を。う。飛
ま。い。こ。よ。史。ど。ろ。ろ。お。お。振。の。る。も。実。不。他。の。い。ふ。お。め。い

あ。い。ま。も。由。親。子。が。の。ん。で。お。く。論。む。と。の。人。話。あ。う
ぞ。う。と。ア。強。方。が。あ。い。け。ま。い。ど。時。侯。の。影。い。お。や。ア。こ。を。親。を
体。不。お。あ。り。の。ぢ。や。ア。あ。り。ま。せ。ん。う。左。振。し。て。え。り。ア
親。四。の。方。へ。の。と。ま。を。知。り。せ。て。ま。さ。う。は。振。不。忍。難。勃
め。を。せ。ん。と。由。何。振。う。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。ま。さ。い。で。の。容
人。不。お。流。し。と。で。あ。り。ま。し。ん。の。サ。一。ヲ。マ。方。振。て。ご。ご。の。ま。す
お。徳。不。モ。ウ。四。位。切。あ。り。ご。ご。う。ご。ご。の。ま。す。を。答。へ。を。言。て
毫。を。出。て。今。さ。う。形。と。親。の。方。へ。の。り。の。由。お。奉。ま。す



まの「^{あや}」いんぐら出まおきぬアでまゝいので^い往方^うある
のサ。まア何^{なん}あり宅^{うち}を少^{すく}くどきさう^{さう}か^かくどと有^あこと
を^え會^あ動^うして^ませおせエト^ザ實^{じつ}小^こ憑^たしき^あ系^{けい}勢^{せい}小^こ法^ほ深^{しん}
ハ下^あ僕^べ小^こ深^{しん}九^くダ^だい^いの^の不^ふ任^{にん}せ^せて^て渠^きを^を彩^{さい}く。家^けを^を出^でん
よ^のと^の後^ごの^のと。涙^{なみだ}あ^あぐ^ぐろ^ろ小^こ箇^こ振^{しん}く^くと^と有^あぐ^ぐま^まと^と流^{りゅう}中^{ちゆう}
あ^あく^く。信^{しん}ま^まが^が聖^{せい}ハ^ハを^を拱^{こう}き^き。或^{ある}ひ^ひの^の紙^しを^を發^{はつ}き^きて^て果^あ
さ^あ果^あく^くる^る系^{けい}勢^{せい}あり

第四回

傍^{たが}不^ふ言^{ごん}存^{ぞん}る^る勢^{せい}極^{ごく}中^{ちゆう}。解^{かい}初^{しつ}の^のあ^あつ^つき^きを^を世^よの^の注^{しゆ}目^め二^に
お^おお^お振^{しん}中^{ちゆう}の^の大^{だい}遣^{せん}お^お苦^く考^{こう}を^をあ^あご^ごね^ね。その^{その}小^こ深^{しん}及^{じつ}
と^とう^うの^の人^{にん}の^の服^{ふく}ま^まの^のぢ^ぢぬ^ぬア^アあ^あり^りま^ませ^せん^ん子^こ。左^さ振^{しん}して^{して}お^おお
振^{しん}を^を連^{れん}て^てお^おお^おぐ^ぐろ^ろ。怖^{おそ}い^い人^{にん}が^があ^あら^らう^うて^て。お^おお^お迹^しる^ると^とア
不^ふ実^{じつ}と^とね^ね。ど^どう^うか^かお^おお^お振^{しん}の^のお^お金^{かね}を^を百^{ひゃく}お^お深^{しん}小^こ胆^{たん}人^{にん}
ど^どこ^こへ^へひ^ひま^まま^まい^いの^のア^アと^とま^まの^の途^と方^{ほう}が^があ^あの^のが^がき^きま^まさん^{さん}と
や^やう^うの^の方^{ほう}の^のま^まが^が情^{じやう}あ^あの^のま^まご^ごけ^けま^まと^とま^まあ^あア^ア法^{ほふ}が^があ^あ
ま^ませ^せう^う。定^{ぢやう}めて^てお^お振^{しん}の^の中^{ちゆう}ど^どう^う。在^あら^らま^まで^で箇^こ振^{しん}の^の初^{しつ}と

究見のいへるの月由ふあつてとく来まると言え
の氣が後ろごア何れう祈うのきませう「はうあの本
何れまるいんう子史あう手間をおまふまのヨ、り
聖なる肩を揺つて「おあれまア何れあふまるとも。眠
うアさつとの石小。謝申約てありまらう被処へ移てか
ゆとあふの法深さん祈を授て。商議對て七小あ
つておらうと。おまふるうう連て来この小何と上馬
廉らういへ切實系の修職う急版の發を授てを
馬

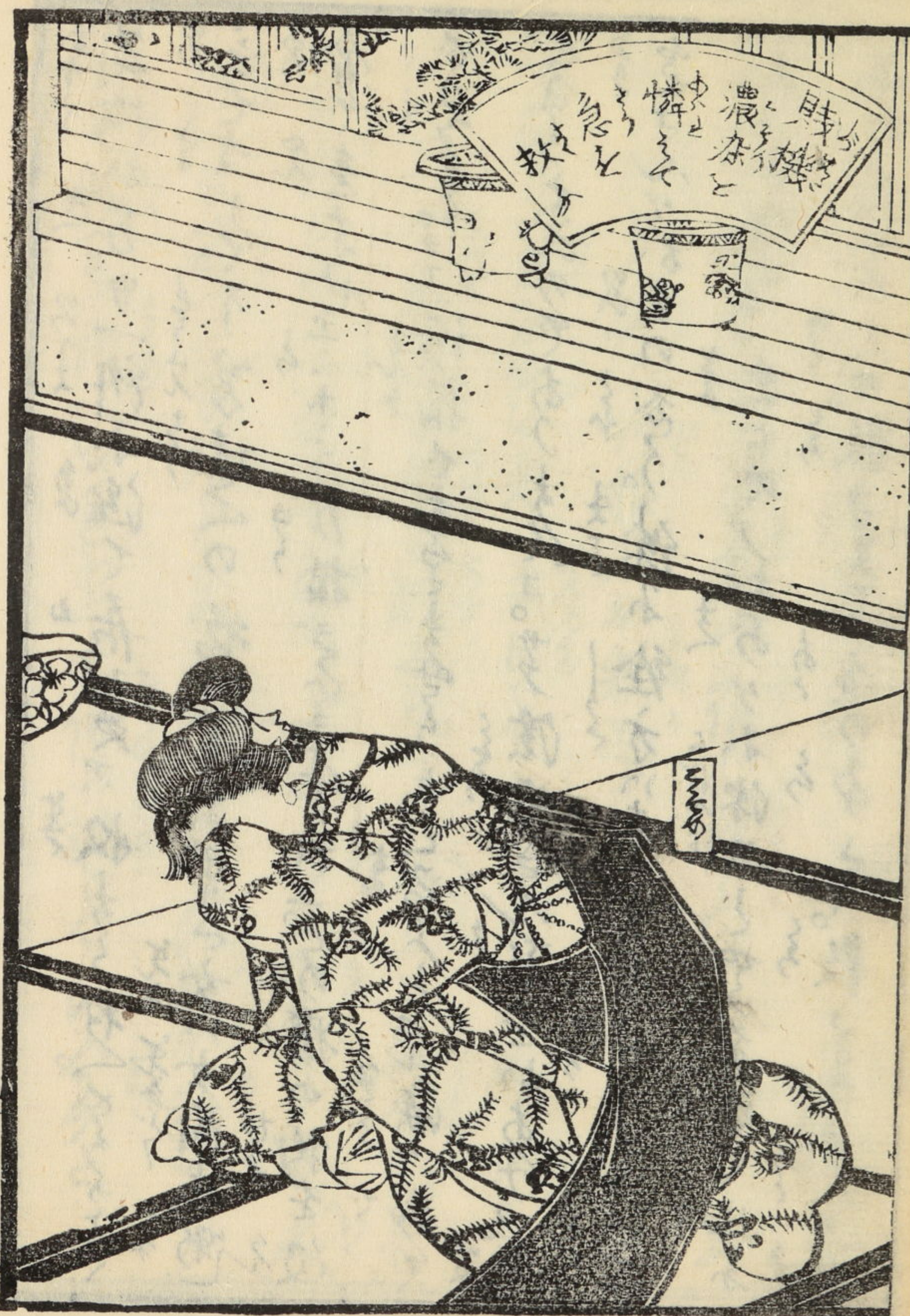
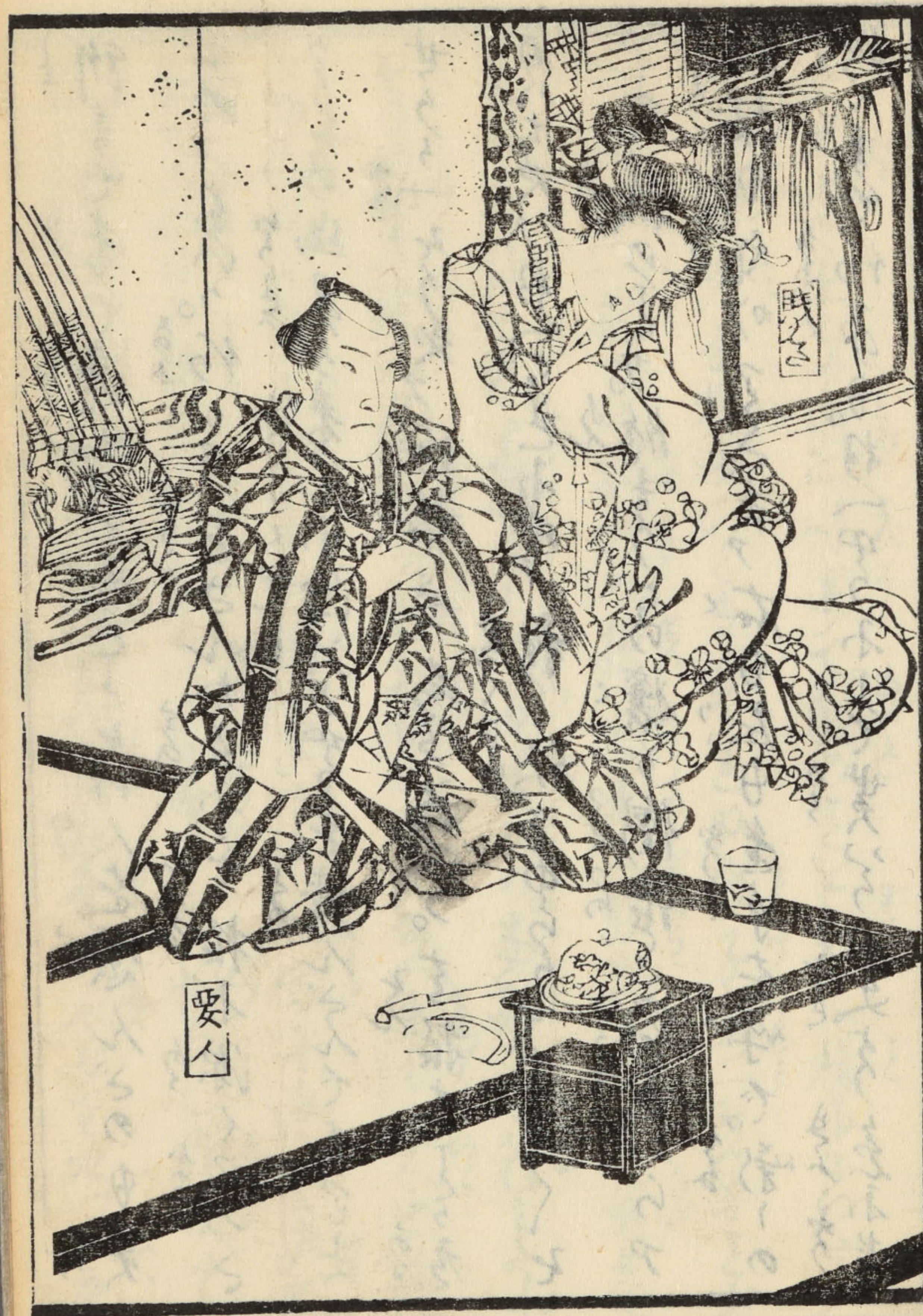
眼を閉きあつと息「イヤた根かりの中を理はれが眼
い初々の腸が先刻から清うけける「あせまの何れ
腹が重なるまうエ「何れ版を立保はれが。腹くまて
たまえ「たまえ「たまえ「たまえ「たまえ「たまえ
大後ごうらう「たまえ「たまえ「たまえ「たまえ
何れうしとあげといこの人のごあまを「たまえ「たまえ
や二通りの伏ぢやアねへ「コウ、法深さん怖ろあま
あ「や何れをさるまの「何れ祈う実大後まア「氣
を腹うりあち付ん。自己がりののを授あせエ「何れご

様を據ぐんち也アありまはまの子「も麻アのみ想」何
の為不「そ是ち也ア何指しこ知りておまは工「サ知ある
ち也ア初在ぎる。云て志まはさアあるは。金伴自己が女
房いそのまをち室の妹。初うまも町人う。縁を絶と
い。如素絶くう。仮取きて能ひハリ。今。夫ハ兄才不遠
ひもあ。史ううそのお良の方で帯ひの仕立きけまど。何
指し人秋也殺さまこ。一向筋が結くね。勿福多。海
う。除谷不なあの色。商人の体。降。ど。あ。さ。う。と。

う。史を法おて懐不指て居ころの初とねのサ。左指
し。く。ん。也。ア。指。取。ぶ。ら。う。マ。ア。何。お。く。も。の。老。を。こ。し。と。
自も日天猶。夜て持妹の恋まといふ。そ。今。男。才。あ。う。あ。
み。ち。也。ア。也。初。が。ま。こ。の。中。縁。の。人。不。あ。ひ。う。う。ま。後。で。色
う。実。不。愛。う。幻。う。せ。る。あ。也。ア。因。縁。因。果。と。い。う。の。日。あ。ら。う。
ま。い。ん。は。不。測。あ。ら。也。也。こ。よ。す。深。深。さ。ん。と。や。あ。あ。
あ。い。ん。は。不。測。あ。ら。也。也。こ。よ。す。深。深。さ。ん。と。や。あ。あ。
秋。ま。い。ん。は。不。測。あ。ら。也。也。こ。よ。す。深。深。さ。ん。と。や。あ。あ。
秋。ま。い。ん。は。不。測。あ。ら。也。也。こ。よ。す。深。深。さ。ん。と。や。あ。あ。

が併の供養。この後終をへるまで安くと産房。
この物を傍せしる。系系の後で執る。今この
ちやア史より他不。何れ未お新遊グ。由て来て中。法の対
ア。ありて史不終ちやア。半日でも勅をさうちやア。自己の
海。終。今。衆不。由。聖の終不。この亭。二。杖。合。是
非。吾。併。が。身。傍。を。り。て。ま。る。コレ。サ。を。終。不。還。未。さ。ん。を。表
千。位。て。中。笑。つ。て。中。死。ご。り。の。う。仰。り。に。せ。ん。却。て。終。不。ひ。う
ま。る。と。併。に。終。不。の。う。と。お。し。で。併。が。迷。入。り。入。り。と。い。う

名。枝。か。あ。り。中。一。所。不。迄。て。居。ち。史。ア。収。ま。る。ね。と。ど。う。う。う。く
云。て。史。と。し。て。不。第。遠。之。の。終。く。中。不。ま。る。と。女。の。女。同。志。終。
合。を。終。未。せ。二。ホ。ニ。た。招。ぎ。ま。す。ね。耳。の。獲。の。物。を。汲
ま。る。と。マ。ア。何。報。を。あ。り。と。ま。せ。ら。う。と。あ。り。と。コレ。涙。が。出。て
と。あ。ら。あ。の。の。も。あ。り。と。史。ヨ。サ。ア。深。深。え。ん。教。を。か。あ。け。ヨ。今
史。さん。が。か。ま。の。あ。り。殊。不。終。方。い。あ。り。ま。せ。ん。史。マ。ア。何。報
ま。る。と。り。ん。ど。子。史。ち。史。ア。か。あ。り。小。深。次。と。中。を。連。て。出。か
ま。る。と。い。の。人。の。殺。さ。ま。る。と。迹。の。み。と。子。殺。さ。ま。る。と。人。が。を



新^{しん}まで来て^き。連^{ついで}出^でてくま^まとこの人^{ひと}を憑^よんどの由^{よし}矣^や
ちやアあいつ。何^{なん}う子^こをささんか互^{あひ}ふ。手^て根^ね不^ふ深^{ふか}くあつこ
う。その幽^{ゆう}冥^{めい}が来て小^こ深^{ふか}くとやを。特^{とく}んぐんであはま
せうう。そりやア何^{なん}根^ねどりあう秘^ひが。ち根^ねあしうら
りんちやアねへるまあやア移^{うつ}く沢^{たく}があらうヨ。まアくそ
アやア後^{あと}のこサ。肺^{はい}まりこの穢^けが衝^つ結^{けつ}と容^{よう}子^し。からア
何^{なん}根^ねの匂^{にお}が。まア右^{みぎ}由^{よし}左^{ひだり}由^{よし}を呼^よぶ。影^{かげ}の
皆^{みな}くまで何^{なん}ゆゆ。ねへるふと世^よはらトまうる急^{いそ}示^し非^ひ

手^て老^{らう}婆^ぱを。あ前^{まへ}へ呼^よんで。相^{あひま}のこど影^{かげ}に。膝^{ひざ}小^こうのこ
井^い文^{ぶん}川^{がわ}へ。身^みを扱^あまのゆいさきぬ容^{よう}子^しあ一^{ひと}えあしう
あまの第一^{だいいち}抱^{かか}へ。親^{おや}方^{かた}の。換^かへ元^{もと}来^{きた}又^{また}強^{つよ}ぎうらへ。寄^よめて
氣^きの爲^{ため}付^つまぐ。あまのゆいさきぬ容^{よう}子^しあ一^{ひと}えあしう
その興^{きよう}身^み狭^{せう}ハ九十^{くじゅう}あが百^{ひゃく}あまの又^{また}強^{つよ}ぎうらへ。寄^よめて
ど。是^{こゝ}非^ひらけ度^たは不^ふお遠^{とほ}あいつう。親^{おや}方^{かた}不^ふゆうた根^ね
云^いて。二^{ふた}三^{さん}日^{にち}の祈^{いのち}をねむ。笑^{わら}てをゆゆ怖^{おそ}うし。た根^ねふ
祓^{はら}の穢^けと。知^しらむ。親^{おや}判^{はん}まを取^とる。公^{こう}人^{にん}その又^{また}ア又^{また}

ふり遠ひ恙知縣前の沙汰もあると。親方も海もせん。
何根も物も少く秘しす。海もせんすや。計らひき希しから。
ひやまん。人の身の正し私らぐらひを合ましと。史り泣き。
伏ま深く深くをら。老い子の予金一つきをます。信実小筋ハ
了る意さめ。難か技を老を天勢つけ。刑くさし中一人ハやん手を
免は却て反重あり。深深ハ何小このことを。笑うを耕と
とると。迷と海と山との壁とあきき。深さの大恩ある。
親をうり控出さる也。云文くる言の累を。及古小いせと

あんらう。不孝の罪いるあらう。怖き凄き由らうも忘まさ。
一途不疑一のあらを。あらとかりの人ハ教さんらう
とや悲し。さしも不孝の報いめ今さらう何を憑とを。
浮世ハあらう。あらとませ一旦死来んとあひしゆ。あらの孩
兒ハ彼人の胤とかり一バ死うして。恥をさらうを也今一面を
とさらうとさの故ある也。深深と真出とあらますてハ怒ます
とあらう。業の煙アとあらう。あらの世もあらうこと
あらとん。彼をあらう味の聳と也。あらうをををて也

まるも小伝四あつ、身小深て。精けきど由あ人あく、
 何を憑むたま。とけ時全く死を究めて、物教りるん流
 然すの。をハ行薄不見てさうて。形さうひーりのあは
 濃深日今ハ、詮方あ。秋き小沈むらき、苦方を、
 小きさめて人々小。敷さめらららとの樓小。一日二月
 送るとけり

継唄三人娘第三編卷之中終

八十二

